（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3291400095		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の杜		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706－12		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPOしまね介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	平成25年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム加茂の杜は、まもなく二年を迎えようとしている。入居者様は生活の場として馴染まれ穏やかに過ごされている。一人ひとり役割を持ち職員と共に支えあって生活できている。自分の居場所も自然と決まり、利用者間で仲良し、馴染みの関係が保たれている。職員は利用者様主体に重きを置き常に尊敬を忘れず対応していくよう話し合いの場を持っている。利用者様が過ごしやすい空間を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者への言葉遣いや接し方、職員間のコミュニケーションなど、ユニットの方針を年度途中で振り返り、運営推進会議でも報告してよりよいサービスの提供ができるように取り組んでいる。利用者は洗濯物干しや食器拭きなど自然に行い、行事やレクリエーション、ボランティアとの交流などを楽しみ精神的にも落ち着いて過ごしている。併設のグループホームと協力体制を築き、情報を共有しながら常により良いサービスを提供したいという法人としての体制があるが、食事についても調理をすることの意味を考え今も支援のあり方を検討している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念を読み上げ、共有し実践向けて努力をしておりつながっている。	職員会議で読み合わせを行ったり、日々の実践の中で管理者や主任から話を聞く機会があり、利用者を尊重して理念に沿った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、加茂の杜の行事に地域の方を招待して交流を図っている。交流の中から顔なじみが出来つつある。地域からボランティアの来園がある。	地域や事業所の行事、絵手紙や音楽リハビリ、演芸などのボランティア、高校生との交流を通し利用者は楽しい時間を過ごしている。食材は地域の店で地域で採れた物を購入し、つながりに配慮している。	交流について運営推進会議でも話されているので、さらなる発展に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な発信はしていないが、行事や面会などで地域の方と話す機会があるときに支援の方法や認知症の特性について話し合うことはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で詳細を報告し参加者との意見を交換することでサービスの向上につなげている。	事業所の状況や活動を詳細に報告し、取り組みに対し共感や理解が深まっている。地域との交流の仕方や、災害対策、家族との関係など、いろいろな立場から意見や提案が出され運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度などでわからない点など気軽に尋ねることができ、市町村側からもきちんと回答を得て、運営をすすめていくことが出来ており協力体制が出来ている。	事業所の取り組みを理解してもらい、気軽にわからないことを聞いたり、入居に当り相談や情報交換を行うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。夜間帯、居室内での一人歩行が危険と思われる方にはセンサーマットを使用し、危険防止（転倒防止）に努めている。センサーマットを身体拘束に位置付け毎月検討を行っている。	職員会議で言葉遣いについて話し合ったり、研修を行い、身体拘束の内容を理解して支援している。帰宅願望のある人には一緒に歩いたり、気分転換できる場面を作り禁止をしない対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会を開き学んでいる。また、言葉による虐待についてユニット会議等で取り上げ職員の意識付けを図っている。日々、利用者の様子観察を行い、見過ごすことのないよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会は設けていないが、入居者の中に後見制度利用者があり、ユニット会議で職員への説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・主任が説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情や意見を受けてユニット間で話し合うなど運営に反映できている。運営推進会議などで外部者への公開も行い、今後に反映させている。	家族の事情や不安を理解して対応し、面会時や電話、運営推進会議などで要望や思いを聞いている。今後、行事への参加など、来所してもらえるよう声かけを多くし、家族の交流の機会が増える事を考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。日々、発生する意見や提案も受け止め反映できている。	会議や日々の業務の中で意見を聞き、職員も相談をしたり提案をしている。夜間専属の職員の意見を取り入れたり、利用者が食べやすい食器を購入するなど、出された意見は改善に繋げられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況ややりがい等について把握に努めており、やりがいのある職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあった適切な研修参加を勧めている。また、園内研修を行い、研修テーマを職員から募るなど、自分たちの研修と捉え参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設実習への参加を募り、他施設との交流の場、学びの場を作り自施設のケアを再確認している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安軽減や思いに耳を傾け出来る限り受け止め、不安の軽減や要望の把握に努め、安心して暮らせる場となる様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など家族とコミュニケーションを図ることで、不安や要望を聞くことが出来、関係作りができてきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・主任で見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いなど出来るところを入居者に手伝ってもらいながら共に支えあって生活している。夜勤帯は穏やかに休まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来易い雰囲気を保ち面会時は絆を深め合える空間作りをしている。情報を共有し家族と共に利用者を支える関係にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や親戚など面会がよくある。尋ねてきやすい環境と対応に配慮している。今後も、馴染みの関係が継続できるよう努めていく。	近所の人や親戚の訪問があり、盆や正月などには家族が沢山集まりお茶会や誕生会をする人もいる。家に帰りたい人には、職員が同行して家で過ごしてもらったり、家族と家で食事をする機会を作り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者の様子把握に努めており、穏やかに過ごせる関わりへの支援ができている。トラブルが起こらないよう、職員が配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度の退去者はない		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えや希望には常に耳を傾け、可能な限り思いにそって対応している。	利用者に笑顔やさりげないボディタッチで接し話しを聞いている。利用者との関わり方を振り返り、できるだけ話しかける機会を多くし、ゆったりと接して思いを聞くことに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り情報をカルテに記入し、職員間で周知できるようユニット会議や日々の情報交換の場で伝達している。家族や利用者のとの会話の中からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のカルテチェックは欠かさず行い現状の把握に努めている。また変化が著しい場合などは連絡帳を通して周知し把握の統一に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でその人らしく生活してもらう為の課題を検討し、より良いケアの方法や援助について話し合っている。	毎月ユニット会議で利用者の状況について情報交換を行いプランに反映させている。家族には日頃から利用者の状況を細やかに伝えていて、面会時などに確認してもらい意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録で、職員が利用者の状態把握ができるよう、詳しく記録することに努めている。介護計画の見直し時にも役立っている。職員間の連絡帳も活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施していない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、絵手紙や音楽リハビリなど、地域の方のボランティア活動を行事にとり入れ楽しみの多い豊かな暮らしとなるよう支援している。地域の学生ボランティアがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の診療や家族に夜受診で適切な医療が受けられている。日頃から異常が見られた場合に相談するなど、事業所との関係も築けている。かかりつけ医の往診も受けている。	利用者、家族の希望したかかりつけ医で、入居後、家族の希望で協力医に変更された人もいる。入居時よりも医療面での対応が必要となり医師と連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師に情報伝達や相談などできており、適切な指示が得られ、受診につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入居者の混乱回避になっていると思う。また早期退院となる様働きかけたり、情報交換や相談ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階で該当者はいないが重度化しつつある方もあり状態変化は報告を密にしている。事業所の方針や対応に関する限度も伝えている	法人として看取りに対する指針を作成した。利用者、家族の希望があり、医師の協力があれば、その時々の手順を踏みながら対応していこうと考えている。看取りを行った他のグループホームの人に来てもらい勉強会を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、急変や事故発生時に備えている。また、園内での勉強会に想定訓練を取り入れ非常時に対応出来る力を付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に受けており、全職員が対応方法を学んでいる。地域の協力を得る体制作りはこれから取り組んでいく。	定期的に避難訓練を行い課題を話し合っている。地域との協力体制について運営推進会議でも話し合い意見をもらっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前でのトイレ誘導の声かけに配慮し、トイレ時は必ず戸を閉めることなどプライバシーを守っている。プライドを傷つけない様な言葉掛けに努めているが馴れ合い言葉もまだある。	利用者の生活暦を把握し、人格、プライドを傷つけないように言葉遣いや声をかけるタイミングにも気を使っている。自分の持ち物を触られたくないという人の思いも尊重して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を口にできる環境であるように心がけている。自己決定ができるような問いかけと、決定を待つことを心がけている。意見を聞く場面を増やす努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあったし生活をしてもらえている。臥床時間が長いなど、身体に影響のでる場合は気分を害さないように離床を勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し朝や入浴時の衣類を選んでもらうなど希望を聞き取り入れている。入居前の生活習慣を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、食器拭きなど職員と一緒に行っている。利用者と同じ食事をとりながら会話し、楽しんでもらえている。	昼、夕の副菜は地元の仕出し屋に依頼しているが、調理をすることの意味を考え続け、野菜を切ったり、バイキング、おやつ作りなど一緒に楽しむ場面を工夫している。食後はごく自然にみんなで食器を拭いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量、形態などに配慮している。水分量は特に注意しており、不足しないよう声をかけながら摂取してもらっている。また嗜好を把握し配慮するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアができている。自立の方には声かけ、時に様子を見るなどし、介助の必要な方には出来るところをしていただいた後、出来ないところのみを手伝っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て、一人ひとりの間隔にあわせた声かけや誘導を行っている。できるだけ汚染のないよう職員間で話し合いパットの検討後使用量が減りつつある。	排泄チェック表や利用者の動きを見て一人ひとりに合った内容で支援している。支援内容をプランに上げ統一した支援に努めている。介護度の高い人も職員が二人でトイレで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然に排便できるよう、水分や食べ物への配慮をしている。体操や散歩など、運動も毎日習慣として行っている。便秘の方は下剤などで調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、時間帯内の希望時間は考慮している。曜日変更の希望も受け、入浴時の雰囲気、一人ひとりのペースを大切にし、楽しい入浴となるよう心がけている。	週に2回ぐらい入浴し、予定の日に入らない場合は日にちを変えるなど柔軟に対応している。利用者の状態に合わせて手動のリフトを使用して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣のある方、体調に合わせて休んで頂く習慣のある方など、状態に合わせた対応を行っている。夜間は気持ちよく眠れる環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲まれているかは、カルテを見て把握に努めている。服薬は手渡し、確認をきちんと行うよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割をもって生活ができている。生活歴を知り、趣味を活かせる場面が増えると良いと思う。また気分転換の支援ももっと増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へドライブや昼食に帰られる方がある。家族の協力が得られ実現しているがこのような方がもっと多くなると良い。庭や畑、駐車場への散歩も出来ている。	天気の良い日には敷地内を散歩したり、ドライブ、畑に出るなどしている。職員は「買いたいものはありませんか」と声をかけ思いを引き出すようにしている。外出をもっとさせて欲しいという家族の声もあり、できるだけ支援したいと思っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方はいない。希望を聞き一緒に買い物に行くこともしていきたい。職員が希望の品を買ってくることが多いが、支払いや残金など説明したり希望があれば使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時に電話してもらっている。家族の都合で、かけられない方もあり、強く希望される場合には事前に了解を得るなど家族と協力し合っている。職員から働きかけ、絵手紙などの作品も便りとして出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保つよう努力している。共用空間には花を飾ったり、絵や書を掲示するなどの工夫をし、暖かい雰囲気作りができている。日中ホールで過ごされる方が多いのも、良い雰囲気が作られているからだと思う。	ホーム内は暖かく、炬燵やソファーなどがあり利用者が思い思いに過ごせるようになっている。観葉植物や季節に合わせた共同作品のちぎり絵、書、歌詞カードなどを飾り、落ち着いた環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で過ごしたり、一人ひとり希望の場所で過ごされている。午睡はホールのコタツで休むなど、好きな場所で好きな人と過ごしてもらえている。また来客時は譲り合いが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やコタツなどを置き、自分の部屋と思ってもらえるよう工夫している。居心地の良い清潔な環境を保つ為、毎日掃除、整頓に心がけている。	何でも自由に持ち込めることを伝え、テレビや時計、カレンダー、写真、畳など利用者に合わせた環境作りをしている。居室担当職員は居心地いい環境になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の場所がわかりやすいように、トイレ表示、自室に表札やのれんをかけている。昨年度より迷われることが少なくなり自立されたと思う。		